

令和7年度 学校経営計画・学校評価シート

高知県立盲学校

<p>《高知県の教育の基本理念》</p>	<p>(1) 学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人 (2) 郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 (3) 多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人</p>	<p>《目指すべき姿》</p>	<p>学校像 (1) 一人一人が確かな学力と専門技術を身に付け、社会参加と自立に向けて学ぶ意欲を持っている学校 (2) 一人一人の人権が尊重され、安心して学習・生活ができる環境が整った学校 (3) 地域のニーズに応える、視覚障害教育のセンター的機能を発揮する学校 (4) 教職員一人一人が教育公務員としての自覚と誇りを持ち、切磋琢磨、協働しチームとして教育に取り組む (5) 幼児児童生徒、保護者、地域、県民から信頼、必要とされる社会に開かれた学校</p>	<p>目指すべき取組の概要に</p>	<p>「チーム高知盲、100年目に向けて着実に歩みを進めよう！ ～高めよう専門性、広めよう地域・社会に～」 キーワード 「生きる力を育む『知』『徳』『体』の推進！」</p> <p>《中期目標(3年間)》 ・生きる力の涵養(「知:確かな学力」「徳:豊かな人間性」「体:健康・体力」) ・在籍者数2桁台を確保する。</p> <p>《令和7年度》 ◆学力の3要素、自立活動を踏まえた学習意欲を引き出す授業の実施 ◆視覚障害による学習面、生活面における困難さの克服、改善 ◆豊かな心・自律心・道徳心・の育成 (自ら考え・判断し・行動できる、挨拶、協調性、思いやる心、感動する心、多様性、食育など) ◆文化・芸術、スポーツ大会等へのチャレンジ ◆盲学校の魅力発信(センター的機能の発揮) ◆安心・安全な学校づくり(高知県学校安全総合支援事業) ◆不祥事防止に向けた取組</p>
<p>《取組の方向性》</p>	<p>《4つの基本方針》 ①「高知家」の全ての子どもたちが、急速に変化する予測困難な今後の社会を生き抜く力を身につけるための教育の推進 ②「高知家」の子ども誰一人取り残さず、多様な背景・特性・事情等を踏まえた包摂的な教育・支援の推進 ③「高知家」の誰もが、生涯にわたって学ぶことができる環境づくりと活動・取組の推進 ④「学校における働き方改革」、「チーム学校の推進・強化」、「教員等の人材確保に向けた取組」の一体的推進</p>		<p>【知】「自らまなぶ」 主体的、意欲的に学び続けることができる幼児児童生徒 【徳】「社会とつながる」 周りの仲間とのつながりを大切に、社会参加できる幼児児童生徒 【体】「たくましくあゆむ」 自ら障害に向き合い、自己実現に向けて積極的に行動できる幼児児童生徒</p>		

《重点取組項目》

(評価 A:目標を十分に達成 B:ほぼ目標を達成 C:やや不十分 D:改善を要する)

項目	取組のねらい【P】	現状と目標【評価指標】	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	学校関係者評価	見直しのポイント【A】	
<p>主体的・対話的で深い学びの実現</p>	<p>教科及び視覚障害教育の専門性を向上させるとともに、自立活動を踏まえた学習意欲を引き出す授業をとおして、主体的・対話的で深い学びによる生きる力を育成する。</p>	<p>《現状》視覚障害教育の専門性を十分に発揮し、発達段階に応じ、子どもたちの自立力を高め、自ら学ぶことの意味や大切さを十分に引き出せていない場面もある。 《成果指標》 【公開授業実施または参加率(70%以上)】 【専門性チェックリストによる確認(年1回以上)】 【悉皆研修会、自主研修会の実施(年1回以上)】 【県外との協働授業の実施(全学部1回以上を教科または特別活動で実施)】</p>	<p>○積極的な公開授業の実施(任意) ○専門性(特に点字、視覚補助具の機器操作)の向上 ○専門性チェックリストの実施と効果的な活用 ○他の特別支援学校の授業参観、協議、研修の実施(年次研中心) ○中国・四国地区盲学校のネットワークを活用した授業の展開及び教科指導のスキルアップ ○自立活動、専門性に関する研修会の実施</p>	<p>C</p>	<p>●授業を担当する教員25名のうち公開授業を実施したのはのべ5名(約20%)である。 ○点字を使用する教職員が主導となって点字指導に関する校内自主研修会を推進しようとして取り組み始めた。 ●他校の授業参観に参加予定の教員は2名である。 ●中四国内のネットワークがあることを知っているも活用することができていない。 ○夏季休業中に「自立活動」をテーマとした校内研修会を実施した。</p>	<p>●公開授業の積極的な実施については、カリネ委員会などで推進できる方策について検討する。 ○「点字に関する専門性向上研修会」について、実施計画に基づき実施するとともに成果と課題についてまとめるために、事前・事後のアンケートを行う。 ○自立活動研修会の成果を踏まえ、児童生徒のより一層、丁寧な実態把握に努めるために各学部における学部研の今年度の取組について再度見直しを含め、推進する。</p>	<p>B</p> <p>○公開授業の実施または参加率については、学校全体で62.5%と昨年度の30%を大きく超えることができた。特に授業を担当していない職種(寄宿舎指導員等)についても積極的に授業参観し、様々な場面での教育活動に生かすことができています。 ●専門性チェックリストについては、昨年度同様、専門性の強み・弱みの傾向も類似している。特に児童生徒数が減少し、盲学校での勤務年数に関わらず、授業等での実践の機会がないと専門性を維持・担保することが難しいこともうかがえた。 ○児童生徒数が減少しても、視覚障害教育の専門性を高めるために点字に関する自主研修を実施し、専門性を維持・継承する意義について理解を深めることができた。 ○中学部、給食を通じて県外の盲学校と協働授業に取り組めた。(広島中央、三重盲、熊本盲、佐賀盲、鹿児島盲、柳河特支等)</p>	<p>A</p> <p>公開授業の実施、参加率は年度当初の目標値を下回っているものの、昨年度からの参加率と比べると大きく飛躍している。また、児童生徒数が減少する中でも専門性を向上させようと努力している姿は一定の評価ができるので、A評価でよいのではないかと。</p>	<p>○引き続き、授業改善、教職員の指導力向上に向けて、公開授業の実施率だけでなく、あらゆる職種の教職員が授業に参加し、子どもたちの実態を把握し、教育活動の充実につなげていきたい。 ○児童生徒数が減少しても県内唯一の視覚支援学校として、一人でも多くの教職員が視覚障害教育の専門家として地域のセンター的機能を発揮できるよう研修等を行っていきたい。 また、全国的に同じような悩みをもつ県外の盲学校との連携を強化していきたい。</p>
<p>キャリア教育の充実</p>	<p>人権教育、道徳教育の推進、文化芸術・スポーツ・健康に関する取組の充実により、生涯を通じて心豊かな生活を送ることができる力を育成する。</p>	<p>《現状》外部機関との連携、防災、SDGs・食育に関する取組は担当者が主体的に行動できているものの全ての子どもたちや授業・支援に直接、携わっていない教職員の主体性を引き出せていない場面がある。また、行事を通じて、成長したいという子どもたちの率直な意見もある。 《成果指標》 【外部機関と連携した交流・共同学習(年間3回以上)】 【各学部、舎におけるSDGs・食育の実施(学期1回以上)】 【個別の教育支援計画に文芸スまたは防災への取組に関する事項を記載(記載率100%)】 【児童生徒アンケートの実施(肯定的評価100%)】</p>	<p>○すがすがしい挨拶の励行 ○発達段階に応じた指導内容表の活用 ○交流及び共同学習の充実 ○学部・専門委員会・生徒会と連携した食育の実施 ○学校安全(3領域)の推進 ○文化・芸術、スポーツのコンクールや大会への積極的なチャレンジ OSC、SSWとの連携</p>	<p>B</p>	<p>○4月当初に学部オリエンテーションで「挨拶」について周知し、道徳教育の中で推進することができた。 ○高等部道徳年間計画にも今年度「挨拶の遂行」の項目を追加できた。 ○防災キャンプを休業中実施し、保護者を巻き込みながら防災教育の必要性について広く取り組むことができた。 ○全国の盲学校と献立交流しながら食育を推進できている。 ○高知県障害者スポーツ大会、中国四国地区盲学校体育大会、県内の文化作品コンクールに応募し、受賞できた。</p>	<p>●挨拶運動の成果は職場実習などの場面で昨年度より発揮できているという報告がある一方で、教職員からの促しがなく消極的であり、不安場面も多い。2学期以降の各種行事、児童会・生徒会活動、交流及び共同学習を推進する中で、より一層の定着を狙っていきたい。 ○防災教育については、児童生徒の意識向上だけでなく、すべての教職員が取り組む姿勢が大切であり、この3年間の取り組みについて振り返り、どのような力量が形成されたのか検証を行ってきたい。</p>	<p>B</p> <p>○外部機関と連携した交流、共同学習では、全教職員の約7割が関わることができている。昨年度同様、高知ユニテッド等のプロスポーツチームや防災教育では多くの関係機関、企業の方の協力を得ることができた。 ○SDGzや食育に関しては、全学部、寄宿舎が取り組むなど学校を挙げて取り組み、教職員の約8割が参画できている。 ●被災時等の危機管理、文化・芸術・スポーツ分野における取り組みについては保護者との情報共有が進む一方で、担当者任せ、担任任せなど教職員全体の意識向上が課題である。 ○児童生徒アンケートでは、学校生活におおね満足している結果であった。一方で、学校行事やクラブ活動の充実を期待する声も見受けられた。</p>	<p>A</p> <p>外部と連携した取り組みは報道件数が減ったとはいえ、今年度も拝見できている。また、児童生徒の全国的な活躍も継続できているので、A評価でよいのではないかと。</p>	<p>○引き続き、盲学校の取組をPRする絶好の機会として報道機関などを戦略的に活用し、広く県民や地域社会に知ってもらい、盲学校と、協働する場面を確保していきたい。 ○被災時の危機管理については、教職員全体が自分事として、捉え行動できるような防災関連行事を継続して行うとともに、教職員が学ぶ機会の確保にも推進していきたい。 ○文化・芸術・スポーツ分野では、特に高知県で開催予定の全国国民文化祭への参画を推進していきたい。</p>

項目	取組のねらい【P】	現状と目標【評価指標】	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	学校関係者評価	見直しのポイント【A】
学校設定項目 盲学校の魅力発信	理解啓発・情報発信を行い、社会に開かれた学校としての役割を果たす。また、関係機関からの情報収集を行い幼児児童生徒の確保並びに地域の学校への支援の充実を図る。	《現状》理解啓発の継続的な取組の成果は出ているが、在籍者数の減少への対応や、視覚障害教育の重要性について今後も引き続き工夫した啓発活動を行う必要がある。特に持続可能な教育活動を維持するためにも地域社会との連携・協働は積極的に推進しなければならない。 《成果指標》 【関係機関や外部機関への直接・間接訪問または情報発信(年間20件以上)】 【児童生徒が主体となる地域への情報発信(年間3件以上)】	OSNSを活用したホームページでの効果的な発信 ○関係機関(市町村、医師会、進路先、福祉等)との連携や、直接訪問の実施(リーフレットの配付や学校概要の説明等) ○地域の行事等への積極的参加 ○地域や保護者につながる学校安全に関する取組の実施 ○生徒会の学校安全に関する取組の推進 ○マスコミを活用した戦略的な発信	○関係機関との連携、情報収集(直接訪問12件、電話説明13件、資料送付3件)に取り組むことができた。 ○地域の防災フェアなどに参加できた。 ○進路実現に向けた計画的な取り組みは在校生だけでなく、困っている卒業生に対しても積極的に支援を行うことができた。 ○関係機関からの依頼を受けて企画に参加し、理解啓発活動や教育相談につなげるための学校説明等を行うことができた。(キッズバリアフリーフェスティバル、ボランティア研修会、オンライン視覚障害基礎講座) ○地域の学校へクラスルームを活用し、研修会やサマースクールの案内等情報発信するなど視覚障害教育のセンター的機能について推進できている。	○PTA研修会などで好評だった事業については引き続き連携し、保護者等への進路情報の提供・共有を図っていきたい。 ●情報発信については、教職員が中心であり、児童生徒からの発信は少ない。2学期の学校行事などを通じて、取り組んでいきたい。 ○近年の卒業生の声、地域社会の資源について、積極的に活用しながら卒業までに身につける生きる力の育成について取り組んでいきたい。	○外部機関との連携、他校との共同学習などあらゆる場面で、高知盲や視覚障害者の理解啓発を念頭に置いた取り組みができ、全教職員の約7割が参画できている。ここ数年は特に地域のイベントなどに保護者の方が積極的に参画していただき、情報を発信する姿(背中)を教職員が見て、協力を申し出る場面が増えてきたように感じている。 ●児童生徒が主体となる地域への情報発信は文化発表会などに限定されている。	児童生徒の情報発信は、年度当初の目標が下回っているとはいえ、文化発表会などで活躍している姿は評価できる。 また、保護者が積極的に地域の行事などに参加し、盲学校の魅力や視覚障害者の理解啓発に勤めている姿は評価できるので、A評価でいいのではないかと感じる。	○引き続き、盲学校の魅力発信については、保護者、地域の方との協働、報道機関の活用などを通じて、取り組んでいきたい。 ○特に子どもたちには児童生徒会活動などを通じて、近隣の小中学校や高等学校と交流するなど子ども同士の視点で理解啓発活動に取り組んでいきたい。 ○関係機関や外部機関への直接訪問が県内全域に行き届くよう引き続き、粘り強く取り組んでいきたい。
働き方改革	仕事にやりがいを感じ、「チーム学校」を意識した、働きやすい職場づくり。	《現状》働き方や職場環境に肯定的な意見が多い一方で、業務の平準化が進まず、特定の教職員の頑張りだけに頼ってしまう現状と子どもに向き合う時間や教材研究の時間のさらなる確保、子育て、看護、介護を続けながらの業務に同僚を気遣う不安の声も大きい。 《成果指標》 【働き方に関するアンケートの実施(肯定的評価90%以上)】 【風通しの良い職場環境づくり(年間2回以上の研修会・交流会の実施)】	○学部を超えた支援 ○相互扶助心の醸成 ○会議開始5分前集合 ○学習形態の工夫(T・T) ○会議の時間設定 ○ノー残業デイ及び警備開始時間の徹底 ○夏季休業中の一斉閉庁日の設定	○校内の行事で部署間を超えた協力体制で臨むことができた。 ○業務について部署内で検討しながらセルフマネジメントしながら解決を目指すなど自律的な解決ができてきている部署もある。 ○関係者の協力により、レクレーション企画など職場のコミュニケーションづくりに積極的に貢献しようとする教職員が増えてきた。	○引き続き、業務の「見える化」についてICT機器を活用しながら推進する。 ●週休日の行事について、協力できる教職員が限定され、固定化している。使命感をもって取り組んでもらっているが、業務を引き継いでもらう人材は枯渇しており、解決策がないのが実情である。 ○担当者同士の業務の引継ぎについては学部、部署だけでなく、学校全体の課題として検討していく。	●昨年度と現状を比較したアンケートでは、自身の働き方が改善できたと回答した教職員は67.5%にとどまっておらず、わからないと回答した教職員も12.5%存在していることがわかった。 ○ほぼすべての教職員が定時退勤できている中で、管理職の働き方改革が進まず、残業が多いことを懸念する声もあった。 ○●校内の人事配置では、初めての担当業務に苦勞した意見もある一方で、煩雑な引継ぎなど業務内容をチームで見直し、改善しようと挑戦する部署もあった。	働き方改革は進んでいるように感じているが、実際には業務が終わらず持ち帰りの教職員はいるのではないかと感じる。次年度も引き続き働き方改革に取り組んでもらいたいのでB評価としたい。	○多様で新たな働き方も提唱され、これまで以上にチームで支えていくことが重要になっている。チームで改善しようとした部署の挑戦を支援し続けていきたい。 ○令和8年度は中国・四国地区レベルの研究大会が控え、業務量の増加が見込まれている。可能な限り、校内の人事配置については、業務量の偏りが起きないように配慮するとともに管理職の働き方改革についても推進してきたい。
不祥事防止に向けた取組	教職公務員として、常に法令を遵守し、責任をもって行動するとともに、不祥事を「自分事」として捉え、個人として、組織として、一丸となって不祥事の撲滅に取り組む。	《現状》同僚性が高い職場である一方で、業務について担当者へ依存し、お互いの業務内容についての関心が低く、課題を見つけにくい場面がある。また、伝統や先例主義で業務を行うことも見受けられ、チェック機能が有効に働かない一面も見受けられる。 《成果指標》 【研修会の実施(年1回以上)】 【セルフチェックの実施(年2回以上)】 【ヒヤリハット報告の積極的な共有と報告・連絡・相談の徹底】	○不祥事防止研修会の実施 ○不祥事防止強化月間の設定 ○不祥事防止に関するセルフチェックの実施 ○メンタルヘルス研修の実施 ○よりよい職場風土づくり ○不祥事防止に関する情報の提供 ○不祥事発生時の適切な対応	○高知県教育センターから講師を招き不祥事防止に取り組むための校内研修を全教職員対象に実施できた。 ○細木病院から講師を招き、メンタルヘルス向上に向けた校内研修会を実施することができた。 ○教職員から不祥事防止に取り組むスローガンを募集し、職員室などに掲示している。	▲定時退勤できている教職員が多数いる一方で、業務量が平準化せず、特定の学部や部署、ミドルリーダー等に偏りがみられる。業務の継続、負担感から生じる不祥事を防止するためには、引継ぎができる人材の育成が急務であるが、うまくできていない。 ○不祥事防止については、引き続き自分事と捉え、行動できる教職員像をめざしていきたい。	○ヒヤリハット報告の情報について、同僚や関係する部署(管理職含む)と共有できていると回答した教職員は100%であり、お互いが重大な不祥事に至らないよう同僚を思いやる姿勢がうかがえた。 ○不祥事防止研修、メンタルヘルスに関する研修では、参加者全員が自分事として捉え、不注意やうっかりミスであっても状況によっては不祥事となることを学ぶことができた。 ●業務量が多い教職員ほど、目立ったSOS発信ができていないように感じる場面が散見される。	不祥事防止について向けた取り組みの成果として、幸いも盲学校には起こっていないことだが、今後とも本当に気を引き締めて取り組んでもらいたい。また、どんなことも教職員が一人て抱え込まないような環境づくりを期待したい。	○不祥事防止については、常に自分事として捉え、同僚がお互いを大切な存在として支え続ける風通しの良い職場づくりを推進していきたい。 ○特に業務量が多い教職員にはこまめな声掛けを行うとともに周りの教職員にも協力をお願いできるように組織として業務の平準化に取り組む。